

章のまとめ

(教科書 p.141)

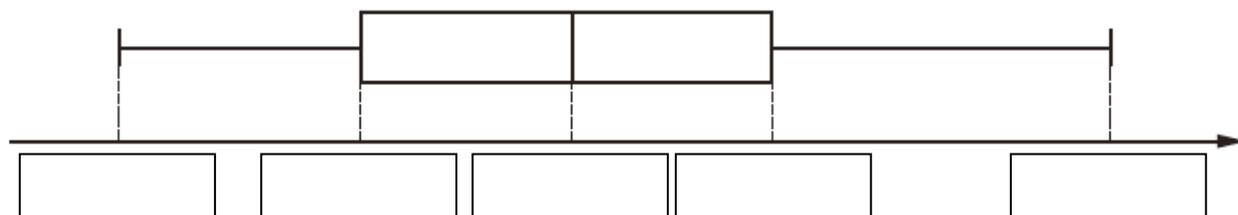
① 代表値 (教科書 p.130, 131)

- (1) データの値の合計をデータの値の個数でわった値を  という。
- (2) データの値を小さい順に並べたとき、中央の値を  という。
- (3) 度数分布表で、度数が最も大きい階級の階級値を  という。

② 四分位数と箱ひげ図 (教科書 p.132, 133)

データの値を小さい順に並べ、中央値を境にして2つに分けたとき

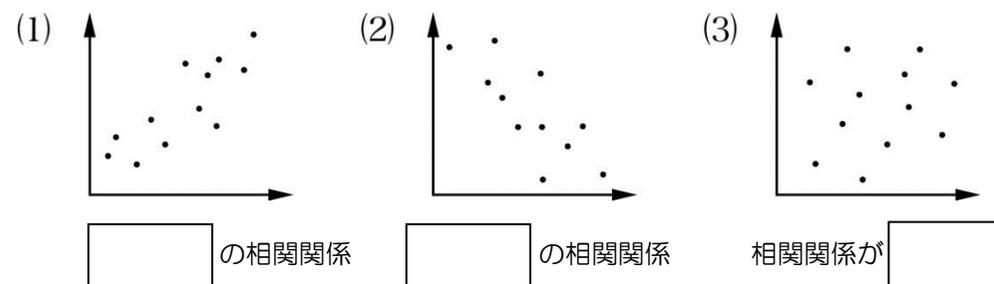
- (1) 中央値を  という。
- (2) 最小値を含む方のデータの中央値を  という。
- (3) 最大値を含む方のデータの中央値を  という。



③ 分散と標準偏差 (教科書 p.134, 135)

- (1) (データの個々の値) - (平均値) を  という。
- (2) 偏差の2乗の平均値を  という。
- (3) 分散の正の平方根を  という。

④ 相関関係 (教科書 p.136, 137)



⑤ 相関係数 (教科書 p.138)

相関係数の値は

- 正の相関関係が強いほど  に近づく。
- 負の相関関係が強いほど  に近づく。

章のまとめ

(教科書 p.141)

① 代表値 (教科書 p.130, 131)

- (1) データの値の合計をデータの値の個数でわった値を **平均値** という。
- (2) データの値を小さい順に並べたとき、中央の値を **中央値** という。
- (3) 度数分布表で、度数が最も大きい階級の階級値を **最頻値** という。

② 四分位数と箱ひげ図 (教科書 p.132, 133)

データの値を小さい順に並べ、中央値を境にして2つに分けたとき

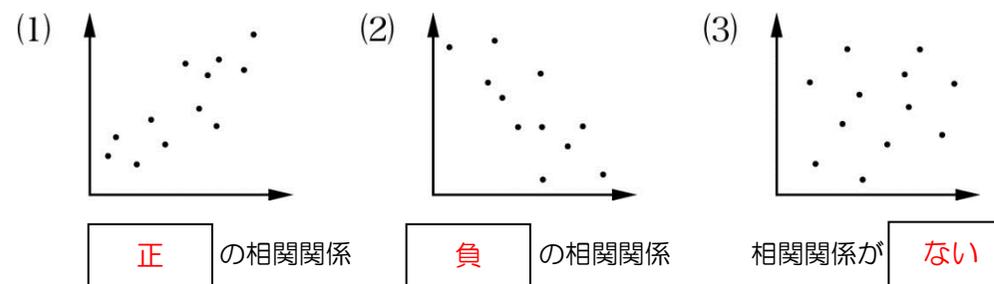
- (1) 中央値を **第2四分位数** という。
- (2) 最小値を含む方のデータの中央値を **第1四分位数** という。
- (3) 最大値を含む方のデータの中央値を **第3四分位数** という。



③ 分散と標準偏差 (教科書 p.134, 135)

- (1) (データの個々の値) - (平均値) を **偏差** という。
- (2) 偏差の2乗の平均値を **分散** という。
- (3) 分散の正の平方根を **標準偏差** という。

④ 相関関係 (教科書 p.136, 137)



⑤ 相関係数 (教科書 p.138)

相関係数の値は

正の相関関係が強いほど **1** に近づく。

負の相関関係が強いほど **-1** に近づく。